

「新緑の若葉のように大きく成長を」



校長 山田千香子

「空ほのぼのと明けそめて光あふるる龍ヶ山、うとう小鳥の声やさし」校歌に歌われる情景の、爽やかな5月がやってきました。校庭のつつじも満開に咲き誇ってくれました。今年の桜はあっという間に咲いて散ってしまいましたが、今はそのあとに芽吹いた新芽が日々色を濃くして、競うように新緑の若葉に育っています。まさに薫風の季節、新しいエネルギーにあふれた木々の姿がまぶしく感じます。

ところで桜のように葉を落とす落葉樹は、春に葉が出るとともに枝を伸ばし幹も太くなっていきます。しかしツツジのような常緑樹の葉は、いつ生え替わるのかご存じですか？

常緑樹と言えども、ずっと同じ葉がついているわけではありません。ツツジは新しい葉が出ると、古い葉は落ちていきます。今根元を見ると枯れ葉がいっぱい落ちています。春に葉を落とす木・秋に葉を落とす木、全部入れ替わる木・半分だけ入れ替わる木・少しずつ入れ替わる木とタイプは様々ですが、常緑樹も新旧の交代をしているのです。新しい葉は古い葉の前面に出て、光をいっぱい浴び大きく育っていきます。今はまだ柔らかく環境の変化に弱い若葉ですが、新旧の交代があるからこそ木々は枝を伸ばし幹を太くすることができるのです。

北須磨高校も44回生を迎え新しい年度が始まり1ヶ月が過ぎました。新しい通学区域となり、今までとは違う中学から初めての 신입生を迎えてのスタートでしたが、生徒の皆さんも新しい学校生活に慣れ、来週からの初めての中間考査に向けて、勉強に励んでおられるようです。

北須磨高校という木は、遠くから見ると変わったように見えなくても、実は中では新しい若葉を迎え、さらに枝を伸ばし大きくなろうとしています。



これから美しい花を咲かせ、より大きく成長して行くために、一人一人の若葉を大きく広げ、色濃くしっかりと丈夫な葉に育ててもらいたいと思います。